

中国2 「読むこと（文学的文章）」に関する問題①

年 組 番 氏名

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

《親譲りの無鉄砲者である「俺」（坊っちゃん）は、子どもの時から様々な問題を起こしていた。》

おやじは、ちつとも俺をかわいがってくれなかった。母は、兄ばかりひいきにしていた。この兄は、*やに色が白くって、芝居のまねをして*女形になるのが好きだった。俺を見るたびに、こいつはどうせろくな者にはならないと、おやじが言った。乱暴で乱暴で行く先が案じられると母が言った。なるほどろくな者にはならない。ご覧のとおり始末である。行く先が案じられたのも無理はない。ただ懲役に行かないで生きていけばいいだけである。

母が病気で死ぬ二、三日前、台所で宙返りをして、*へつついの角であれば骨を打って大いに痛かった。母がたいそう怒って、おまえのような者の顔は見たくないと言うから、親類へ泊まりに行っていた。すると、とうとう死んだという知らせが来た。そう早く死ぬとは思わなかった。そんな大病なら、もう少しおとなしくすればよかったと思って帰ってきた。そうしたら例の兄が、俺を親不孝だ、俺のために、おつかさんが早く死んだんだと言った。くやしかったから、兄の横つつらを張って大変叱られた。


母が死んでからは、おやじと兄と三人で暮らしていた。おやじはなんにもせぬ男で、人の顔さえ見れば、きさまはだめだだめだと口癖のように言っていた。何がだめなんだか今にわからない。妙なおやじがあったもんだ。兄は、実業家になるとか言って、しきりに英語を勉強していた。元来、はつきりしない性分で、ずるいから、仲がよくなかった。十日に一ぺんぐらいの割でけんかをしていた。ある時将棋をさしたら、ひきような待ち駒をして、人が困るとうれしそうに冷やかした。あんまり腹が立ったから、手にあつた飛車を眉間へたたきつけてやった。眉間が割れて、少々血が出た。兄がおやじに言いつけた。おやじが俺を勘当すると言いだした。

（夏目漱石「坊っちゃん」による）

やに…いやに
女形：歌舞伎で、女性の役を演じる男性の役者。
へつつい…かまど


次はこの文章を読んだ鈴木さんが作成した登場人物についてのメモ書きと、それについての会話である。会話文を読んで後の間に答えなさい。
〈登場人物についてのメモ書き〉

おやじ




「俺」からすると「なんにもせぬ男」であり、「俺」を見てはだめだだめだと口癖のように言っていた。
「俺」が兄と将棋でけんかした際には、勘当すると言った。

兄




母



「俺」の乱暴さに、行く末を案じる。
病気で亡くなる二、三日前に「俺」を怒り、顔を見たくないと言う。「俺」が家を出ている間に亡くなる。

坊っちゃん
(俺)




ろくな者でないと自分でも考えている。
「ただ懲役に行かないで生きているばかり」

鈴木 小説中の文章から、それぞれの人物についてメモ書きをしてみました。
田中 これから「兄」についてまとめるのですね。
鈴木 はい。
田中 このメモ書きにそれぞれの関係性を書き加えると、人物の相関図になる
かもしれないね。


問一 「兄」について、他の登場人物を参考にしながら、文章を読んでメモ書きをまとめなさい。

問二 会話文中の田中さんの発言にあるように、文章中の人物間の関係性について、例の書き方を参考にしながら書き込み、人物相関図を作りなさい。

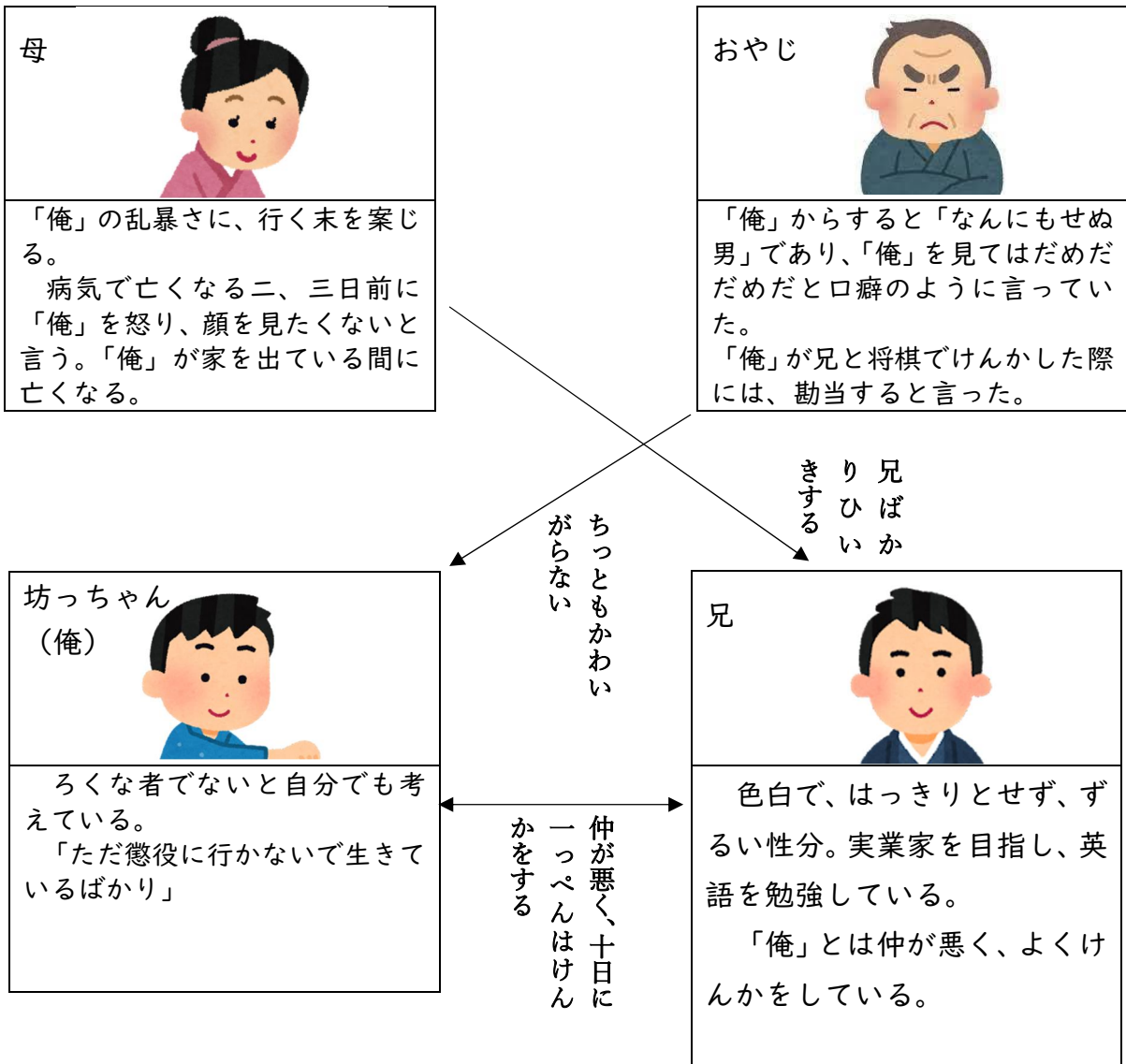
〈例〉

おやじ	
「俺」からすると「なんにもせぬ男」であり、「俺」を見てはだめだだめだと口癖のように言っていた。 「俺」が兄と将棋でけんかした際には、勘当すると言った。	

ちつともかわいがらない

坊っちゃん (俺)	
ろくな者でないと自分でも考えている。 「ただ懲役に行かないで生きてるばかり」	

《解答例》



《評価のポイント》

人物についての説明やセリフ、行動の描写を根拠に人物相関図をまとめる。メモ書きの内容と、人物同士の関係性（矢印で示される内容）の説明が重なってもよい。

「おやじ・兄・俺」の三者を囲み、「母が死んでからは三人で暮らす」という説明を付け加えるなどのように、学習者の工夫を積極的に見取り、評価したい。